

徳島県の企業団体と台湾苗栗台中地域の企業団体が 経済・文化・観光・農村振興相互協力を目的にMOUを締結

台湾農業部農村発展及び水土保持署(日本でいう農林水産省にあたる機関。以下、水保署)及び水保署 台中分署の発案、企画で、2024年8月9日午後5時から、徳島市中洲町のThe Pacific Harborで「経済・文化・観光・農村振興相互協力MOU締結式」を日台共同で開催。

台湾代表団は、水保署署長の李鎮洋氏と苗栗县政府農業処処長の陳樹義氏が率い、苗栗県公館農会(日本でいう農協にあたる機関)、苗栗市農会、霧峰区農会、祺峰休閒事業有限公司、台湾観光旅行業交流協会、馨樂旅行社が参加し、台湾と日本の友好的な交流と産業の相互協力について意見交換します。

徳島県と台湾苗栗台中地区 経済文化観光振興相互協力MOU締結式及び交流会

日 時：令和6年8月9日 17:00～21:00

場 所：The Pacific Harbor 徳島市中洲町3丁目5-1

出席者：台湾代表団

台湾農業部農村発展及び水土保持署、苗栗县政府農業処 他

日本側代表：徳島県企業及び民間団体

MOU 締結組織：

物産関連：苗栗市農会・公館郷農会・霧峰区農会・樹生ワイナリー と

徳島県酒造組合・徳島港湾荷役株式会社

観光関連：台湾観光旅行業交流協会・祺峰レジャー事業(株)・馨樂旅行社 と

(株)ときわ・(株)エアトラベル徳島

経済文化関連：苗栗県観光協会・台湾咖啡研究室 と 四究会



連絡先：梅岡 (つがお) 圭太郎 株式会社オリジナル代表取締役

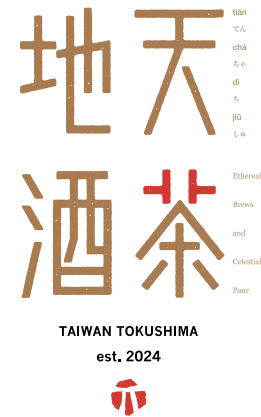
電話番号：090-4333-6114 メールアドレス：tsugaoka@becreatie.jp

「天茶地酒」ブランド紹介

コンセプト

天茶地酒（てんちゃちしゅ）という名称の由来は、中国の老子が『道德経』で述べた天長地久（てんちょうちきゅう）の言葉に起因しています。これは自己のためではなく存在するが故に、永遠に生存できることを意味します。私たちは台湾産の茶と地酒から、環境に優しい商品を厳選し、これらの商品を日本と共有し、また他の日本の特産品と共に大航海時代のように全世界で共有できることを期待しています。私たちが提供するものは、単なる商品ではなく、この哲学的精神も一緒に世界に広めていくことです。

*天長地久（てんちょうちきゅう）は、万物は自分のために存在しないから、サステナブルになれるの意。

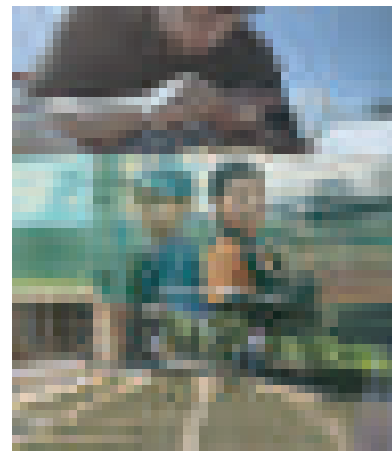


目的

台湾と徳島という国境を超えた2つの地域が手を組んで、1つのブランドを構築。それぞれの特産品や長所を活かした新しい商品を開発し、それを世界に発信していくことを目的としています。

イメージ映像制作

天茶地酒のコンセプトを描いた映像を日台協同で制作します。天茶地酒の意味、目的、展望を台湾と徳島の映像を交えながら描きます。



徳島と台湾をつなげるストーリー

台湾東部の花蓮県吉安郷は日本の統治下にあった明治時代以降、徳島県の吉野川流域から多くの人が移住したことから「吉野村」と呼ばれていました。日本統治時代の花蓮吉野村で酒米として生産されていたお米「吉野一号」は当時重要な農作物でした。

花蓮の農業改良場に保存されていた「吉野一号」の種籾を使い、13年から少量で栽培を始め、自家採種しながら徐々にその生産量を増やしてきました。有機認証を受け品質管理をしながら丁寧なお米造りをしています。その「吉野一合」を使って台中で作られたお酒「瑞光吉野」が今年誕生します。今回の交流にご尽力頂いた分署長の陳さんは花蓮出身であり、彼のオフィスには発売前の瑞光吉野が飾られています。この瑞光吉野の発売を徳島県とのMOU締結のタイミングで行う計画が進めています。また、徳島県と水保署の両者に寄贈する記念品はこの瑞光吉野を中心に苗栗のお茶と徳島の阿波晩茶、台湾の芝焼きと鳴門の大谷焼のおちょこをセットにしたものになる予定です。



記念品デザイン案（徳島杉+藍染）

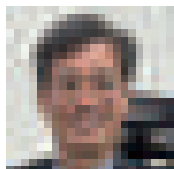
MOU 締結までの道のり

構成メンバー

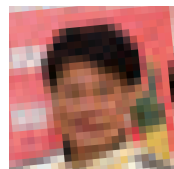
台湾



李 鎮洋
水保署 署長



陳 榮俊 花蓮出身
水保署 台中分署長
台中分署の責任者、去年までは南投分署の署長、初めての珈琲のイベントの立ち上げ、農村開発や水保保持などに多くの貢献を残している。



梁 大慶
國立虎尾科技大學 副教授
台湾農村旅遊関連、國際導遊、領隊專家、旅行業專家



吳 振發
國立中興大學 教授
台湾里山政策関連
IPSI 國際學者



林 哲豪
台湾咖啡産業関連
建設会社の責任者、実業家

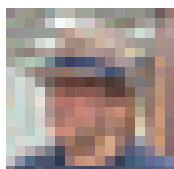


王 重治
SOLVFX 代表
天茶地酒案件の実行責任者、初めての珈琲の実行責任者

徳島



榎岡 圭太郎
(株)オリジナル 代表
映像・デザインに長けた
広告会社。
米国 NY 州 SVA 卒



北島 康男
北島産業(株) 代表
鉄鋼総合商社。アメリカ留学後
中国西安にて複数の会社を経営。
奥様は台湾出身。



長谷川 典子
ORIOWL (株) 代表
台湾珈琲の日本展開を主導
京都在住。

水保署の活動

2021 台湾精品咖啡飘香日本「台湾のスペシャルティコーヒーは日本の香りがする」

水保署が台湾の厳選された 13 農園のコーヒーを日本で紹介するキャンペーンを開始。
全国 24 都道府県のカフェでの台湾コーヒーの販売。

映画「初めての珈琲～第一杯珈琲～」制作・上映

台湾のコーヒー作りのこだわり、日本との歴史的な関わり、台湾コーヒー農園の昔と今を軸に、日台の人々の交流を描いた。



台湾珈琲 HP : www.taiwancoffee.tw/ja

2022 台湾珈琲祭り

全国 24 都道府県のカフェでの台湾コーヒーの販売。



2023 台湾コーヒー農園体験ツアー

台湾のコーヒー農園訪問&焙煎体験・試飲、カップングなどができるスペシャル体験ツアーを開催。

台湾フェスタ 2023 にて「台湾珈琲」ブースを出店

台湾のコーヒー農園訪問&焙煎体験・試飲、カップングなどができるスペシャル体験ツアーを開催。
7月代々木公園野外音楽堂広場で行われた台湾フェスタに水保署として台湾コーヒーブースを出店。



台湾珈琲促進に関する日台協力覚書調印

台湾コーヒーの日本での今後の展開に向けて、日本のコーヒーショップと協力覚書調印。



○ 2019.4

王 重治氏 徳島初来訪

アメリカ留学時代の友人である(株)オリジナルの長竹に会いに徳島初訪問。同年代ということもあり梅岡と意気投合。その際に以前台湾で王氏と知り合いだった北島を紹介される。以後、梅岡と北島は親交を深めつつ、徳島県内の経済団体等にて地方創生の活動を模索。



○ 2020.3

映画「人形師天狗久」制作。王氏の会社が VFX を担当

文化庁主催、梅岡が監督を務め、徳島県内で撮影された映画を台湾の VFX 制作会社 SOL VFX が担う。



○ 2021~2

王氏、VFX会社の経営と並行で台湾政府の案件を請負う(前頁参照)

台湾の農産物、文化を発信する事業に従事。初年度は台湾珈琲の海外展開に携わる。



○ 2023

王氏から台湾の物産を日本で展開する相談をうける

台湾珈琲以外の物産を日本で展開する事業について王氏と梅岡で話し合いを重ねる。梅岡が他の有名な都会・観光地ではなく、徳島県との交流を促す。一方性の交流ではなく両方向性でパートナー性の強い交流に持っていくことを台湾政府に提案することに。



○ 2023.10

水保署から台中での「日本酒祭とワイン音楽祭」に招待される

梅岡、台中の霧峰農會(日本で言う農協)にある酒蔵での新酒祭り、ワイン音楽祭に徳島の代表として招待を受ける。水保署、農協、生産者と交流を図る。徳島の日本酒果実酒もアピール。



○ 2023.10

水際公園で亜細亜夜市開催 台湾珈琲ブースを出店

梅岡がスマッシュアクションから相談を受け、秋の阿波踊りに合わせたイベントを企画。当初は台湾夜市の名前で企画、その後亜細亜にエリアを広げて開催。売切店続出する大賑わい。多めに用意した台湾珈琲も2日持たず完売。

○ 2023.12

王氏提案のプロジェクトが台湾政府から採択(600万円=3000万円)

王氏と梅岡が進めたプロジェクトが台湾から採択される。タイトルは「台中苗栗地域の農産物と国際パートナーの提携実践プロジェクト」。内容は農産物の生産が盛んな台中地域、中でも中心の台中苗栗地域の産業を国際市場に推進するために、取り掛かりとして日本の徳島県との国際交流を深め、ゆくゆくは統合したブランドを国際的に発信していくこと。3~4年の長期計画を予定。(詳細は後述)



○ 2024.3/20

台北・台中訪問 3/20~22 梅岡と北島で台北・台中を訪問。

■台湾における三重県プロモーション展開を視察(ソラリア西鉄ホテル)

■物流会社 KLINE TAIWAN と打合せ

日本からの祝祭輸出する際の食材別注意点などをヒアリング。

■バイヤー・飲食店関係者からのヒアリング

西原商会 西元副総経理・エバラ食品 大野木董事 副総経理などの日系企業のバイヤー、現地の大三元 吳董事長、阜杭豆漿 徐経理、台湾珈琲 林氏などの飲食店関係者との現地でのニーズなどについてヒアリング。

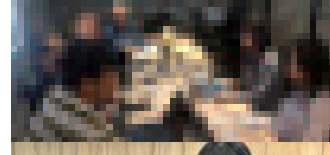
■久利酒蔵台北本社との日本の酒類についての打合せ

50種の日本酒、焼酎、果実酒などを輸入販売する思橙国際 鄭氏と許氏より台湾における日本の酒類のニーズや今後の方向性などをヒアリング。徳島のお酒をアピール。

<https://www.kurisake.com.tw/>

■台中でのマーケティングリサーチ

台中へ向かいマーケティング調査を実施。超富裕層が多く在住し、高品質の日本製品のニーズが高まっている。1億円以上のタワーマンションが急増し、世界中のハイブランドショップが集まり、今後ますます成長が見込まれる魅力的なマーケットとして注目されるエリア。(次頁へつづく)



2024.3/21

■台中行政との打合せ

水保署台中分署 陳分署長、張科長と打合せし、台中で生産されている商品や日本からの農産物などのニーズについてヒアリング。現地商社の蔡氏も同席し、日本の地方製品のこれまでの輸入実績や台中でのフェアについて商談。(次頁へつづく)

■久利酒蔵台中支社にて打合せ

思橙国際台中 廖・劉業務代表と台中における日本の酒類のニーズや商談イベントの開催の可能性などについてヒアリング。

■日本酒類販売店で打合せ

日本酒を中心に日本の酒類を数多く販売する Sake La Vie の華山芳醸 黄顧問に台中での売れ筋のブランドなどについてヒアリング。作や鈴鹿川などの三重県のお酒も取り扱う。
https://www.instagram.com/sake_la_vie/

■新光三越や Top City などのデパートの売り場を視察

台中中心部にある日系、現地デパートの地下食品売り場において日本と台湾の商品のラインナップや価格などをリサーチ。
https://www.skm.com.tw/store_branch/7
<https://www.feds.com.tw/jp/53/OverSea>

■現地富裕層に日本の食についてヒアリング

寶順興開発 廖董事長と億豊綜合工業 粘副總經理に台中における日本食のニーズについてヒアリング。肉類や魚介類、麺類、日本酒やワイン、ビールなど高価格帯であっても品質の高いものであれば受け入れられているとのこと。



2024.3/23

2024 Kingship にて徳島の梅酒を販売

台中で毎年開催されるドリンク関連のビッグイベント 2024 キングシップにおいて、水保署の陳分署長自らが徳島の梅酒をアピール。2日とも即完売の大人気。



2024.3/31

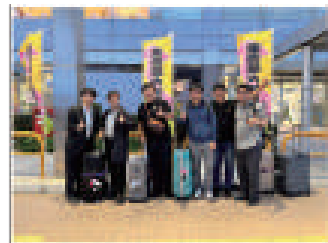
台湾農村特使団 徳島訪問

2
4/3

陳榮俊 (チェン ロンジュン)	農業部農村發展及水土保持署臺中分署	臺中分署署長
吳振發 (ウー チェンファ)	國立中興大學 園藝學系	教授
梁大慶 (リャン ダイチン)	國立虎尾科技大學休閒遊憩系	教授
林哲豪 (リン テツホウ)	台灣咖啡產業策略聯盟召集人	代表
賴勝楠 (ライ ショウナン)	東宏寰宇整合規劃有限公司	總經理
王重治 (オウ シゲハル)	索爾視覺效果股份有限公司	總經理

3/1

18:10 着 桃園國際空港—高松空港 (チャイナエアライン)
 19:30 レンタカーで移動。ホテルグランヴィリオ徳島チェックイン
 20:00 一鴻秋田町店にて食事



2024.3/31 (つづき) 台湾農村特使団 徳島訪問

4/1
4/3

- 9:00 上勝町バンゲア
町の歴史、いろどり、ゼロ・ウェイストの座学
ゼロ・ウェイストセンター訪問
- 12:00 昼食（ポールスター）
- 13:00 里山ドライブ（椋原の棚田等）
- 16:00 徳島県庁訪問（農林水産部多田茂夫氏）
- 18:00 ひょうたん島クルーズ居酒屋便
県庁前川の駅から沖洲ししくいへ
- 21:00 徳島駅前バー余白

里山の研究をされている呉先生の希望で、上勝町を訪問。
ゼロ・ウェイスト活動、棚田の保全、満開の桜に一同感動。

午後は徳島県庁農林水産部を訪問。台湾に詳しい多田副理事
が台湾地図を広げエリア毎の話が盛り上がった。

日の入り前にホテルグランヴィリオ前にチャーターしていた
ひょうたん島クルーズ船に乗船。沖洲のししくいまでクルーズ
を楽しんだ。ししくいの豪快で豪華な海女料理を絶賛。梁先生（
観光専門）曰く、台湾の富裕層をツアーでぜひ連れてきたい。
倍以上の価格で提供できるとのこと。

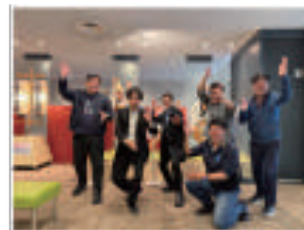


2024.3/31 (つづき) 台湾農村特使団 徳島訪問

4/2
4/3

- 8:45 ホテル発
- 9:00 MOU 会場の下見
ザ・バシフィックハーバー
ホテルクレメント
- 11:00 あるでよ徳島 物産協会会長と打合せ
- 12:00 ランチ（東新町 増田）
- 14:00 阿波おどり会館 阿波おどりを観覧
- 16:00 観桜の宴参加（椋野倶楽部）
署長あいさつ・名刺交換
台湾ブースでのお茶・お酒・珈琲のPR
- 21:00 栄町昭和サロン 1968

夏開催予定の台湾交流会会場の視察後、あるでよ徳島にて
物産協会会長の濱野氏とミーティング。徳島から台湾で出
したい物産、人気が出そうなジャンル等をヒアリング。
ランチ後、阿波おどり会館にて阿波おどりを観覧。
会館の踊りだけで、お盆の阿波おどりに是非ツアー客を連
れてきたいと、さっそく台湾の旅行会社に連絡。
夕方からは松茂町の椋野倶楽部で開催された観桜の宴に参
加。インバウンド事業に参画希望のときわさんとのコラボ
で台湾ドリンクブースを設置。台中のお酒、珈琲、お茶を
参加者に振る舞った。ときわでバイト中の台湾留学生もヘ
ルプで参加。徳島の経済人達へのアピールの場になった。



2024.3/31 (つづき) 台湾農村特使団 徳島訪問

4/3

- 9:00 ホテル発
- 10:00 渦の道
- 11:00 鯛塩ラーメン
- 12:30 福寿醤油
松浦酒造
- 13:00 一番札所靈山寺
- 14:00 藍屋敷おくむら 藍住本店
- 16:00 高松空港

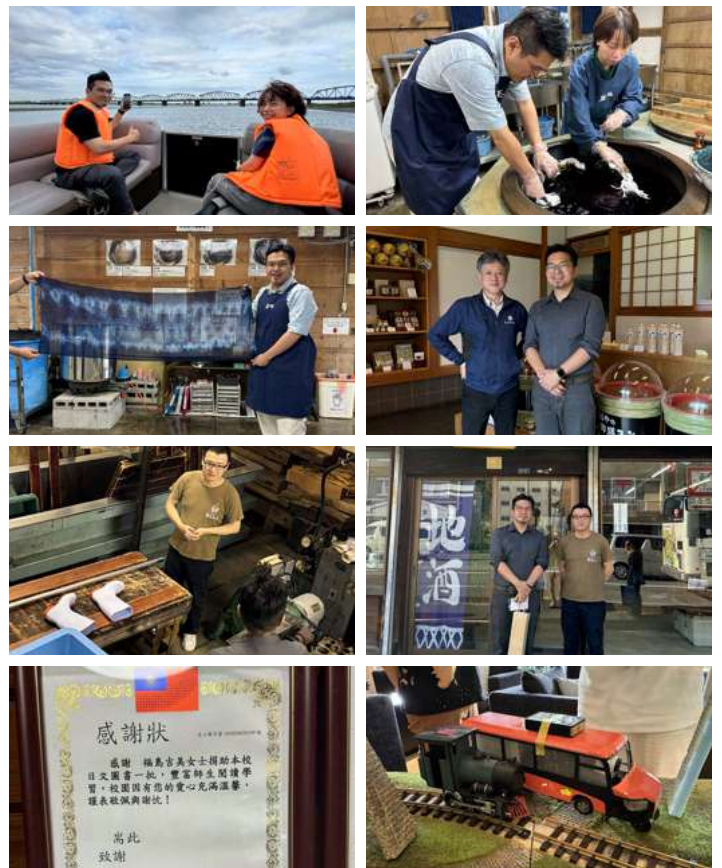
未明の台湾花蓮州地震で、国からの対応に追われるなか、鳴門を中心に観光。
あいにくの天候で干潮船はキャンセルし、渦の道から渦潮を観覧。松浦酒造ではリニューアルされた店舗で試飲とお酒を購入。靈山寺ではお遍路人気を実感。自転車や徒歩でのお遍路巡りに興味を持った。
藍の館で藍染の歴史を学び、高松空港からの帰路についた。3泊の旅で慌ただしく徳島を回ったが、参加者からは大好評であり、徳島県の誘客に大いに可能性を感じた。今回の旅がきっかけで8月に大型のツアーをすることが決定。50人規模の台中からのツアーになる予定。



2024.6/8 王氏 徳島訪問

6/11

- 6/8 王氏羽田より来徳
ひょうたん島クルーズ
- 6/9 とくしまラーメン「いのたに」
藍の館
- 6/10 蕎麦堂真
志まや訪問
徳島県物産協会会長濱野様
齊藤酒造訪問
萬福寺訪問 福島住職
- 6/11 はやしのお好み焼き



「台中苗栗地域の農産物と国際パートナーの提携実践プロジェクト」について

アウトライン

台湾台中苗栗地域の産業を推進し、産業を横断する計画の関連成果を結びつけ、地方の良い製品を活用して農村産品を国際市場に推進するため、この計画では日本の徳島県を対象にした国際交流と国際的な資源の統合を行います。

台湾の農村の風味豊かなお茶や、農村で醸造されたお酒を通じて、日本市場および国際市場での知名度と販売量を向上させることを目指し、多様なイベントとオンラインマーケティングを組み合わせ、台湾の農村のお茶と農村酒産業の国際展開を促進するガイドとなります。



プロジェクトの目標

目標その1

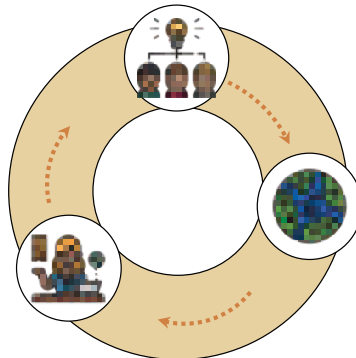
国際交流プラットフォームを構築し、台湾の茶と地酒産業の連携と相互交流を促進します。

目標その2

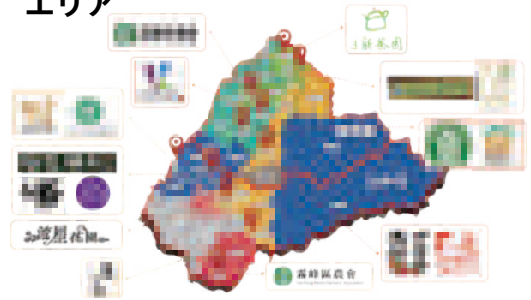
国際市場への参加を通じて、台湾茶と地酒の国際的な知名度と認知度を高めます。

目標その3

日本の高品質なお茶と地酒業者および販売チャネルを結びつけ、台湾の高品質なお茶と地酒ツアーを開拓し、国際市場に合わせます。



エリア



台中と苗栗農村のコミュニティをマッチングする予定
国際交流プラットフォームを構築し、台湾の茶と地酒産業の連携と相互交流を促進します。苗栗県の頭份市、三湾郷、苗栗市、公館郷、銅鑼郷、大湖郷の6つの地域。台中市の大安区、外埔区、豊原区、新社区、霧峰区。

初年度の活動予定

日台国際交流の統合プラットフォームの運営	<ol style="list-style-type: none"> 1. 国際的なポテンシャルを持つ産業をピックアップ。計画分析。市場調査等 2. 「日台お茶・お酒の交流の統合プラットフォーム」を設立。イベントの計画等。 3. マーケティングポジショニングの分析。製品の翻訳、海外協力スタッフの配置。関税手続き等。 4. 産業促進戦略ワークショップを開催（10回）。 5. 専門家による現地産業訪問。
国際交流展覧会のイベントの準備	<ol style="list-style-type: none"> 6. プロモーションイベントまたは展示会を実施 7. クロスボーダー展示会を開催 8. 国際交流展覧会向けパッケージデザイン、DM等
台湾国内でのクロスカテゴリイベント開催	<ol style="list-style-type: none"> 9. 文化交流イベント、クロスカテゴリーの協力イベント、産業プロモーション発表会等 10. 国際の交流する付加価値を深化（例：日本企業が台中苗栗の特色のある農産物を組み合わせた取り組み）
メディアマーケティングプロモーション	<ol style="list-style-type: none"> 11. 国内外のネットワークやメディアで露出を計画。
国際にお茶・お酒の多様なイベントの推進	<ol style="list-style-type: none"> 12. 地元の組織や企業と関連する協力のための覚書や意向書（MOU）を締結。 13. 本計画に関連するさまざまな活動、会議、またはセミナーに参加。 14. 今回のクロスボーダー交流などを写真、ビデオにまとめる。ビジュアル制作等。
宣伝物の作成	<ol style="list-style-type: none"> 15. プロモーションの効果を強化。パッケージのリデザイン等。

「台中苗栗地域の農産物と国際パートナーの提携実践プロジェクト」について

1年目:コンセプトの確定とMOUの締結

異文化間コミュニケーションと協力の意向確認:

台湾と徳島の商業代表者と初期の接触を図り、協力の意向と大方向を明確にします。
協力の可能性と期待について話し合う初期会議の開催を検討できます。

協力条件と難易度の評価:

例えば徳島の酒米を台湾に導入する具体的な条件、法的制約、市場需要、技術的実現可能性について詳細な調査と分析が必要です。

政府レベルでのサポートと認証:

両国政府が農業協力和製品認証を促進するためにどのような支援と便宜を提供できるかを探ります。

民間の合流:

具体的実行内容は今回はMOUで記念品を日本と台湾で同時に開発する。

2年目:コンセプトの具体化と国際化への布石

製品開発と市場テスト:

1年目の研究と準備に基づき、「天茶地酒(後述)」の具体的な製品を開発し、市場テストを行い、電子商取引、マルシェ、実店舗の販売チャンネルを探索します。

販売チャンネルの法規確定:

製品販売における法律要件、特に国際貿易における標準遵守と認証プロセスを明確にします。

3年目:国際マーケティング化と拡張

国際市場進出戦略:

台湾と日本での経験を基に、他国、特にアメリカ市場への進出方法を学びます。市場調査、流通チャンネルの構築、マーケティング戦略の具体化を含む具体的な市場進出戦略を策定します。

文化交流と学術協力:

文化および学術交流を強化し、例えば大学生の交換学習、文化イベント(現代阿波踊りバトルなど)の開催を通じて、プロジェクトの知名度と参加度を高めます。

8月 天茶地酒連(52名) 徳島ツアー

3/31の徳島ツアーで徳島観光に魅力を感じてもらったことで、急遽夏のツアーを梁教授と台湾の旅行会社が企画。

今回のツアーはモデルツアーの立ち位置として台湾からインフルエンサーとKOLが同行し徳島の魅力を発信してくれることに。

阿波おどりの観覧、踊り込み、お遍路、にし阿波、鳴門など、徳島県を網羅的に訪問。今後のインバウンド推進に効果的と考えられる。政府団には台湾の農協関係者も徳島の魅力を感じて随行することが決定。

8/8 政府団(20名)台北—高松空港—徳島グランヴィリオ

8/9 政府団—MOU締結—交流会(パシフィックハーバー)

民間ツアー(32名)台中—高松空港—藍の館—イオンモール—徳島グランヴィリオ—交流会(パシフィックハーバー)

8/10 政府・民間—阿波おどり体験(tonaru鳴門)—渦の道—昼食(アオアヲナルトリゾート)—霊山寺—松浦酒造—福寿醤油—夕食(一鴻)

8/11 太龍寺—昼食(道の駅鷺の里)—眉山公園—阿波おどり前夜祭(アスティとくしま)—夕食(海女料理しずくい・徳島新鮮なっとく市)

8/12 着付け・阿波おどりレクチャー—南内町踊り込み—演舞場観覧—民間団は高松へ

8/12 政府団—大歩危観光遊覧船—昼食(大歩危峡まんなか)—祖谷のかずら橋—高松空港—台北

民間団—大歩危観光遊覧船—昼食(大歩危峡まんなか)—祖谷のかずら橋—ことひら温泉琴参閣泊

8/12 金比羅宮参拝—栗林公園—高松空港—台中

相互ブランド「天茶地酒」展開案

アメリカ貿易ルート

アメリカの会社である Taiwan Trading Company と Cross Border Lab は、アジアの商品やブランドをアメリカ市場に進出させるための共同代理を行っています。すでにロサンゼルス の Fatty Mart (オンラインショップを含む)、全米の H Mart、全米 Ewhon (高級スーパー)、ニューヨークの YunHai Shop (オンラインショップを含む) にて台湾の物産品を販売しています。ゼロからバイヤーや販売店を開拓することなく、このチャンネルを徳島県が利用して徳島県の物産を輸入ルートに乗せることが可能になります。

台湾内での出展・出店サポート

天茶地酒で繋がる関係性は台湾国内での徳島県ポップアップショップ、アンテナショップ、展示会等への出店を現地のスタッフがアシスト。現地の日系代理店、日系旅行会社を通すよりも、より効率よく安価で進出することが可能になります。

観光でつながる交流

天茶地酒を通して、台湾国内での徳島県のブランド力がアップすることが考えられます。台中苗栗エリアは 300 万人の人口を抱えています。また台湾国内でも富裕層が多い地区として有名です。このエリアから徳島県へ観光客を誘致する施策を行うチャンスになるでしょう。また大学間の交流、文化的な交流などを深める良いキッカケになるとも考えられます。このエリアは風光明媚な自然と、台中ダウンタウンの大都会のバランスが取られており、日本からの観光を促すに恥じないポテンシャルを保持しています。



先行で進出している、米国ニューヨークで天茶地酒ブランドとしてブース出店。



ららぽーと台中で店舗展開+徳島アンテナショップを開設。



台湾で開催される展示会でのアシスト。共同出展。販売サポート等。